

事業所名

KTC放課後等デイサービスはぐぼん藤が丘北

支援プログラム（参考様式）

作成日

2025 年

3 月

1 日

法人（事業所）理念		遊びを通し社会生活の中で必要な様々な能力を身に着け向上していけるよう支援します。 個々の発達レベルや特性に合わせた学習支援として「ただ問題を解き答え合わせをするのではなく」問題の解き方を特性に合わせて理解できるよう支援し、「今までできなかった問題を自力で解くことができる」成功体験から学習への苦手意識を軽減させていき、「できた」を通して様々な事を自ら楽しんで学んでいくことができる環境を提供していきます。											
支援方針		各種支援カリキュラムや遊びを通して集団内における行動の方法や他者との関わりを学び、他の子の行動を見ながら行動することや話し方を「まねをしてみる」ことを促し、会話や体をどう動かすのかなどを学べるよう支援を行う。また、遊びの中からルールを守り行動することの重要性や、どのようにコミュニケーションを行うと良いかなど、社会性や人間関係・認知や行動・言語やコミュニケーションを学べるよう支援します。 食育の観点から「他のお友達が食べているところ」や自分で材料から「おやつ」等を作ることで、その食品が何からできているかを学び「食べても大丈夫」という認識をすることができるようにし、生活面や健康面での支援をします。 5領域すべてを含む支援を実施するとともに、個々の状況や課題などに合わせた個別支援において各領域に特化した支援を実施し、能力の維持向上および自立のために必要な能力の向上を目指していきます。 学校や他の習い事などでの状況を担任の先生や担当者又はご家族様から聴き、事業所以外での生活の状況や課題点を総合的に把握し、その情報と事業所内での状況などを鑑みて本人が抱える課題点などを乗り越えていくことができるよう支援していく。また、これらの情報を定期的及び必要に応じて聴き取りしていくことによりPDCAサイクルによる支援の提供を実施していきます。 事業所内での取り組みや同世代の子ども同士の交流・「デイでの経験が豊富な先輩」や「上手くできる子」が低学年の子や新しく入ってきた子に色々と「教え合い」ができる環境を整え、社会的能力や地域社会への参加をしていく時に必要な経験や能力の向上を図っていきます。											
営業時間		平日	10	時	0	分から	19	時	0	分まで	送迎実施の有無	あり	事業所で定める送迎エリア範囲（学区）内において実施します。
		学校休校日	9	時	0	分から	18	時	0	分まで		なし	
支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	健康な生活習慣の促進や日常生活における基本的な動作や自立を促します。 ・健康状態の維持、改善。（体温測定・体調管理・手洗いうがい・体調の自己把握） ・生活リズムや生活習慣形成。（事業所流れに沿った行動） ・基本的な生活スキル獲得。（排泄・おやつ時手洗いの徹底・片付け・おやつの準備）											
	運動・感覚	学習時の姿勢保持、感覚の特性への対応を支援し、日常生活や学習活動における支障を軽減し自己肯定感を高めます。 ・座る姿勢、文字を書く時の姿勢確認、保持 ・手先の巧緻性を高める訓練 ・感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応や環境整備 ・ビジョントレーニング											
	認知・行動	発達レベルに応じた各教科学習支援、認知の偏りに対する予防や誤認識による行動に対する支援等、状況に合わせた対応力や認識のずれなどについて支援します。 ・1日の時間帯別活動を示すタイムテーブルを自ら確認し行動できるよう支援し時間認知形成を促していく ・発達に合わせた学習認知形成 ・ブロックワークによる空間把握および認知形成 ・小集団における活動での適切な行動形成、認知の偏りに対する支援											

言語コミュニケーション	<p>適切なコミュニケーション能力の獲得や社会生活における関係性の向上を活動プログラム等を通し、社会生活の中で必要不可欠な言語能力の向上を支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状況に合わせた「あいさつ」終わりの会等での活動振り返り等による言語表出・受容 ・障がいの特性に応じた読み書き能力の向上を支援 ・ルール等を絵カードを使って視覚化する等の、視覚優先の観点に配慮し作成した掲示物等による環境整備 ・コミュニケーション能力向上支援として、上級生が下級生に自ら色々と教えるまたは、年齢に関係なく「できる子」が「苦手な子」に色々と教えていける環境整備 		
人間関係社会性	<p>ルールに合わせた行動等や他者との関係向上の手助けや助言等の支援を通し、将来必要となる「自ら人間関係を作る」または「関係修復」をするための支援を実践的にを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アタッチメント形成 ・一人遊び、並行遊び、連合的な遊びの組み合わせ、移行を促しながら社会性の発達を支援し、学校生活で必要となる能力の向上を狙う ・ルールの理解が必要な遊びや集団活動により、協調性やなげルールを守るのか等の倫理を学べるよう支援する ・自己の行動や感情を理解しコントロールできるようにする支援として、アンガーマネジメントや感情を言葉で伝えるための語彙力等を高めていける支援を行う 		
家族支援	<p>送迎時に学校やご家庭での様子を共有する時間を設け、かつ連絡帳にて情報共有を行い、必要に応じてご家庭内での支援方法等についての相談等を実施します。 定期的な面談や日頃の様子や課題について保護者様と話し合い、お子様の成長に必要なことを共に考えていく体制を整えています。</p>	移行支援	<p>ライフステージに合わせた移行準備や地域とのつながりを一緒に考え、子どもと家族のニーズやペースに合わせて、移行先と連携し支援内容・方法を共有します。</p>
地域支援・地域連携	<p>子どもに関わる関係機関（保健、医療、福祉、教育）との情報連携や調整、支援方法や環境調整の相談援助を必要に応じて実施しています。 相談支援事業所との生活支援や発達支援における連携を実施しています。 インクルージョンの観点から、地域で開催されるイベントまたは各種コンクール等への参加を推奨し、社会参加及び地域社会への交流を実施しています。</p>	職員の質の向上	<p>日々の業務の中でOODAサイクルを意識し、療育実践後の記録の際には、職員全体で振り返り次の活動内容について検討し、保護者様からの情報や子どもの様子等を職員全員で共有し支援の向上へ繋げています。 社内カレンダーにて定めた職員会議では、発達特性・子どもや子育てについての社会情勢等・安全計画・虐待防止・感染症対策又は予防・緊急時対応等を実施しています。 その他には、各種研修会にも積極的に参加し支援の質の向上に努めています。</p>
主な行事等	別紙参照		